

提携先	(株)カジノヤ	記入日	2008/8/27
登録消費材名	納豆・小粒カップ納豆・ひきわり納豆カップ・極小粒納豆カップ		

．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

カジノヤは生活クラブ独自規格農産物原料を使用した消費材の供給アップを常に目指しております。04年より毎年JA庄内・全農と協力し大豆の栽培とこれを原料にした納豆作りに取り組んでおり、この独自原料材の供給量が拡大することを願い納豆作りに取り組んでおります。

．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

07年納豆供給はコスズ品種で大豆収量が約20トンと06年供給の約半分の数量で供給も短い期間でしたがクレーム等もなく供給できました。
この様に供給量アップの為には、大豆づくりに参加してくれる農家(大豆部会加入者)の生産意欲の向上をはかることが課題とされます。

．上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

08年供給(07年産大豆)は大豆の品種がコスズからスズカオリに変更(山形県の奨励品種変更)になりました。このスズカオリ種に変更理由は味・収穫量・病虫害対策等の目的で品種改良を行った品種であります。又同時に大豆生産農家への助成金を受けるために県とJA指導のもと新品種大豆を使い栽培が行われ07年晩秋に収穫となりました。今年庄内で収穫大豆(07年産)の全量「小粒：極小粒」を使い納豆づくりに取り組むことにもなりました。
昨年までは極小粒大豆での納豆造りは致しておりませんでした。今年使う庄内大豆(07年産)の半分がこの極小粒サイズであり思わしくない収穫でありました。この為、極小粒を他用途向けに使うことになれば販売単価(通常大豆の10%～20%程度の価格)の下落で農家の減収に直結し大豆栽培意欲を減退させることとなります。今回の全量使用は生産意欲向上と収量確保に向けての対策であります。我々納豆生産現場では粒形の違いによる納豆の造り分けなどもありいろいろ難しい点もありますが、共に指定農産物原料使用率向上のためにも努力してまいります。
又カジノヤでは今春より生産量の安定確保と農家支援のために北海道美幌地区に10町歩の土地を借り(借地契約を行い)自分らで大豆づくりも始めました。